



歴史と未来が交差する四日市「みなとめぐり」

四日市市 四日市旧港界隈

東海道の宿場町として、陸路を行き交う人々や物資で賑わった四日市は、「みなと」とともに発展した町でもありました。

古くから天然の良港として知られた四日市湊みなとでしたが、江戸時代末期に大地震に襲われたことなどから、干潮時には小船の出入りも困難な状況になりました。そのため、明治時代に近代港湾施設の基礎を築くために尽力したのが稲葉三右衛門さんえもんでした。

その後も、改修・埋め立て工事などが進められた四日市港は、商工業都市・四日市市を支える存在であり続け、近年では工場夜景スポットとしても注目を集めています。

*四日市「みなと」を漢字表記する場合、明確な区別はないものの、江戸時代においては河岸から荷物を積み下ろす際（きわ）の「ところ」を湊みなとといい、明治時代に稲葉三右衛門が船着き場などを整備して近代港湾となつてからを「港」と表記することが多いため、本文中の表記もこれに従いました。

取材・文：中村真由美



今回の案内人は、「NPO四日市案内人協会」代表の光用（みつもち）敬一さん（写真右）と、相談役の田中 明郎（あきお）さん。同会のモットー“四日市を愛し、四日市を知り、四日市を語ります”そのままに、深い愛情と知識が満ち溢れていました。

家康伝承が息づく思案橋

「まずは、四日市湊を偲ぶ場所に向かいます。入口近くにあった橋には、家康伝承が語り継がれています」。

今回の散策の起点、JR「四日市」駅を後にして最初に案内されたのは、駅の北に位置する不動寺です。周囲には商店や住宅が建ち並びますが、かつては東側に湊があり、境内にあった竜の形をした松に灯明を付けて、灯台代わりをしていたと教わります。



不動寺

「竜灯松」と称されたという松は、現在はありませんが、家康ゆかりの橋は、東側に進んだ道沿いで見ることができました。橋のもとに建つ「思案橋の由来」には、本能寺の変を知った徳川家康が、伊賀路を経て当地に来た際、陸路を行くか海路を選ぶか、思案にくれた話などが記されています。実際の船出場所は諸説あるものの、この伝承をもとに思案橋と名付けられた橋は、昭和61（1986）年に再建され、地域の人々が今も守り続けています。



思案橋

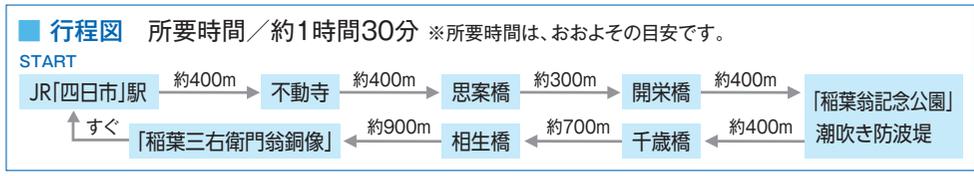
家康の船出場所は不明ですが、四日市を重視していたのは確かです。晴れて天下人になると、幕府直轄地とし、東海道の宿駅を設け、四日市廻船かいせん（沿岸航路で荷物などを輸送する船のこと）を公認。四日市の発展には、家康の存在が関わっていたといえるでしょう。

稲葉三右衛門の功績

思案橋を後にして東へ進む道筋は、蔵町通りです。江戸時代初期までは入り江でしたが、埋め立てられて湊がさらに東へ移動すると、廻船問屋などの蔵や納屋なやが建ち並ぶように。道の両側にずらりと蔵が建ち並んだ様子は、壮観だったことでしょう。

納屋運河に架かる開栄橋を渡り、さらに東へと歩くと、道は突当りになりました。この辺り一帯が四日市旧港で、基礎を築いたのが稲葉三右衛門（1837〜1914）です。

「伊勢水」と呼ばれた菜種油などが江戸へと運ばれ、多くの船で賑わった四





末広橋梁



相生橋



「稲葉三右衛門翁銅像」

TEL 0599-3222-0590
「NPO四日市案内協会」

るされているのに気付きました。レトロな風情が感じられる同商店街からは、終点の「JR「四日市」駅はすぐ近くですが、その前にぜひ見ておきたいのが、「稲葉三右衛門翁銅像」です。駅前中央通りに堂々と立つ姿は、四日市港の未来を見据えているかのようでした。

歩きます。これは、高潮護岸の防壁前面平場を利用した遊歩道で、旧港の様子などを眺めながら散策していると、10分程度で千歳橋に到着しました。千歳橋からは帰路に就きますが、ここで少しだけ足を延ばして末広橋梁を見るのもおすすめです。現役では最古の鉄道可動橋で、昭和6(1931)年に製作されました。

る末広橋梁を見た後は、納屋防災緑地公園脇を進みます。すると、右手に新しい橋が見えてきました。平成7(1995)年完成の相生橋で、夜間はライトアップされ人々に親しまれています。相生橋からは西へ向かい、本町通り商店街を歩きます。アーケード街では、東海道五十三次の各宿場の浮世絵が吊



本町通り商店街

とここで、旧港施設の中で最も目を引くのは、石積みの防波堤でしょう。旧港内を包み込むように緩やかにカーブしていて、その側面には五角形の穴が開いています。これは、三右衛門が

現在の潮吹き防波堤は全体像が見えず、構造が分かりにくくなっています。が、同園内に展示された模型を見ると、よくわかります。案内板の始動ボタンと呼ばれます。

現役最古の鉄道可動橋

「稲葉翁記念公園」からは、平成3(1991)年に整備されたプロムナードを

築いた施設が、その後の暴風雨などによって破損したため、同26(1893)年から翌年にかけて行われた改修工事の際に築かれたもので、潮吹き防波堤と呼ばれます。

を押すと波が現れ、港外側の小堤を乗り越えた波が、平行する大堤で受け止められ、大堤に開けられた潮吹き穴から港内側に流れ出す様子を間近に見ることができました。



「稲葉三右衛門君彰功碑」



潮吹き防波堤遠景



潮吹き防波堤の模型



プロムナード



潮吹き防波堤近景